

第67回 兵庫県人権教育研究大会実践報告から

淡路市健康福祉部 地域福祉課 来 田 真由美

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、第67回兵庫県人権教育研究大会は中止となりましたが、淡路市から報告予定であった実践報告を、一部抜粋して掲載します。

認知症になっても地域で暮らせるために

淡路市の高齢化率は年々増加し、令和2年4月1日現在で37・8%である。それに伴い、「認知症の急増」も問題となっており、65歳以上の高齢者のうち、5人にひとりには認知症に該当すると言われている。認知症は誰もがなりうるものであり、家族

や身近な人が認知症になることも含め、多くの人にとつて身近なものとして、意識づけることが必要である。

認知症の方、及び家族とかかわる中で、当事者の気持ちに十分に答えることができず、今後の支援のあり方について考えさせられたケースについて紹介する。

時々てんかん発作を起こし、妻は心配していた。次第に曜日を間違え、会の出席を忘れるようになってきた。

「Aさんのケース」

Aさんは、仕事の現場で大けがをして頭の手術をして以降、

Aさんは、認知症状の進行と奥さんの介護負担感が大きくなったことから、認知症初期集中支援事業の対象となり、作業療法士、ケアマネージャーから支援を受けた。

Aさんは、仕事の現場で大けがをして頭の手術をして以降、

「帰りたい」という思いを抑えられず、入院中に自宅まで歩いて帰ってしまう。そのことがきっかけになり、「病院ではもうみられない」と言われ、病院の勧めで施設に入所することになる。

Aさんは、仕事の現場で大けがをして頭の手術をして以降、

施設について、Aさんご本人に伺う。「困ることはないけど、

Aさんは、仕事の現場で大けがをして頭の手術をして以降、

いきまわりが多い、向こうに見えて

Aさんは、仕事の現場で大けがをして頭の手術をして以降、

いる所なのに行ってはいけな

Aさんは、仕事の現場で大けがをして頭の手術をして以降、

たまに話ができるくらい。この前、妹が面会に来たけど、マスクをしていて何を言っているのか分からなかった。将棋をする人がいたけど、弱くて相手にならない。本はどこにも置いていない。テレビはリビングにあるけど、場所が悪くて見えない。ここには自分のものが何も無い、あるのはコップと服だけ。家に帰って自分の物を触りたい。」

認知症のかかわり

- ①自尊心を傷つけない
- ②一番不安・困っているのは本人
- ③ゆったりとした雰囲気ですぐ急がせない
- ④説得よりも納得できるように寄り添う
- ⑤見守りがあれば生活できることが多い
- ⑥医療面では、診断と治療も大切
- ⑦介護面では、がんばりすぎない



認知症施策推進ポスター

北淡中学校1年 松下 悠名

夢希望 生きてるみんなに 平等に

志筑小学校6年 寺岡 隼汰

ディスタンス はなれとっても 友達や

一宮小学校6年 粟田 敬斗

幸せは いつも自分が 決めるんだ

学習小学校4年 原 ひなの

2020 人権標語
第2部(小学生高学年)入選

2020 人権標語
第2部(小学生高学年)入選

2020 人権標語
第2部(小学生高学年)入選